

教科名	国語	単位数	3 単位	担当 者	鶴間乃笛子・小林仁美
科目名	古典探究（文系）	年次	2		
使用教科書 副教材等	『精選古典探究 古文編／漢文編』（東京書籍） 『プレミアム国語便覧』（数研出版）『古文単語 330』（いいずな書店） 『読解をたいせつにする体系古典文法』（数研出版）『新明説漢文』（尚文出版） 『大学入試国語頻出問題 1200』（いいずな書店） 『グランステップ古典(古文・漢文) 2』（尚文出版）				
1 学習の到達目標（育成すべき資質・能力）					
・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。					
2 学習の評価（評価基準と評価方法）					
観 点	a. 知識及び技能	b. 思考力,判断力,表現力等	c. 主体的に学習に取り組む態度		
観 点 の 趣 旨	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		
主 た る 評 価 方 法	考査（年4回） 確認テスト（適宜） 授業時の観察	考査（年回） ※「読む」領域 提出物（適宜） ※「書く」領域 授業時の観察	小テスト（取り組み） 週末課題（提出状況） 授業時の観察 ※単元毎の振り返り 10％ ※語彙習得の取り組み 10％		
占める割合に 評価全体に	40％	40％	20％		
3 学習の目標と振り返り					
	《目 標》 ～何ができるようになりたいか具体的に～		《振り返り》 ～学習の振り返りと今後の課題～		
前 期			【達成できた・一部達成できた・達成できなかった】		
後 期			【達成できた・一部達成できた・達成できなかった】		

4 学習の内容						
学期	学習内容 (単元)	主な評価の観点			単元(題材)の評価規準	評価方法
		a	b	c		
	【古文】伊勢物語 「初冠」	○	◎	○	・ 基本的文法事項・和歌修辞を理解し、 内容を理解する。	考査 提出物 考査
	【漢文】小話 「先從隗始」 「完璧而帰」	◎	○	○	・ 基本的な句法の理解を深め、故事成語 の叙述の面白さを味わう。	
	第1回定期考査					
	【古文】更級日記 「門出」	◎	○	○	・ 文化的な背景との関連を意識し、日記 文学を読み解く。	
	【漢文】史記 「鴻門之会」	○	◎	○	・ 歴史的事実と心情表現を結びつけ史 話の面白さを読み解く。	
	【古文】枕草子 「中納言参り給ひて」 「二月のつごもりごろに」	◎	○	○	・ 敬語の基礎を理解し、人間関係に留意 し作者の機知を理解する。	
	第2回定期考査					
	【古文】大鏡 「花山天皇の出家」	◎	○	○	・ 敬語の用法を確認し、作者の批判精神 を理解する。	
	第3回定期考査					
	【漢文】儒家の思想 道家の思想 「論語」三章 「性之善也、猶水之就下」 「無用之用」	○	◎	○	・ 儒家・道家の思想に触れ、人間理解を する。	
	実力テスト					
	【古文】源氏物語 「光源氏の誕生」	◎	○	○	・ 登場人物の様子を読み取り、物語文学 の史的意義を理解する。	
	第4回定期考査					
	【古文】徒然草 「花は盛りに」	○	◎	○	・ 文化的な背景と古文常識との関連を意 識し、作者の美意識を読み解く。	